

鶴尾小学校PTA 自転車用ヘルメット貸与



子どもの生命を守る取り組みが、大きな反響を呼んでいます。

記者ノート

「命を守るためにしっかりと着用して」。担任がそう声掛けし、児童に手渡した物は自転車用のヘルメット。先日、高松市松並町の鶴尾小学校で行われた貸与式を取材した時の様子だ。

ヘルメットは、PTAが購入し、同校に寄贈。希望した4、6年生に貸し出し、卒業後

自転車でもヘルメットを

に返却してもらう予定という。背景には、児童のヘルメット保有率の低さがある。

同校が4、6年生77人を対象に行ったアンケートでは、ヘルメットを持っているのは4割。特に6年生は2割にとどまり、「サイズが合わなくなったので捨てた」などの理由が目立った。

県警によると、県内では昨年、児童30人が事故時のけがの軽減にヘルメットが有効なことは言うまでもない。同校のような取り組みが県内で広まり、児童を守る機運が高まることを期待したい。

（報道部・山崎悠登）